

とり村回覧板

Vol.

36

2025年 冬号

認定NPO法人TSUBASA

「人・鳥・社会の幸せのために」

tel.048-480-6077

www.tsubasa.ne.jp

埼玉県新座市中野2-2-22

【ピンキー】@オオバタン

穏やかで優しい性格の男の子です。人のことが好きで、口笛を吹くとお返事をしてくれたり、頭をカキカキしてもらおうとゆっくりと近付いてきてくれたりします。足の裏に赤みがあり、たまに出血することもあるが、普段はアクリルケースの中に看護パッチを置き、その上に毛布を掛けたところで過ごしています。高齢ということもあってか、白内障が出ており目はあまりよく見えていないようです。そのため、アクリルケースの入口の前を開ける時は



ノックをする、放鳥の際に金網の上に乗ってもらいたいときにはベルを鳴らすなどの合図をしています。放鳥は本人にとって楽しみな時間らしく、楽しそうに歩き回ったり、止まれる場所があるとのんびりと過ごしていたりする様子が見られます。また、ケースの中でもご機嫌なときは上下に揺れてノリノリになっていることがあり、こちらまで見て楽しくなります。

施設の鳥たちの中でも古参であるピンキー、良いご縁に恵まれ余生を幸せに過ごしてもらえたら…と願っています。

TSUBASA

「The Society for Unity with Birds – Adoption and Sanctuary in Asia」

(鳥と調和のとれる社会 – アジアの里親とサンクチュアリ)

TSUBASAは「人・鳥・社会の幸せのために」を理念にレスキュー活動をする団体です

TSUBASAは、インコ・オウム・フィンチと暮らす全ての方、そして動物愛護に関心をお持ちの方に対してより良いバードライフのご提案と適正な飼育のための啓発活動を行っております。

また、様々な理由により手放されてしまった鳥たちを引き取り(里子制度)、新しい飼い主さんを探す(里親制度)活動を行っております。

回覧板を設置していただきませんか？

広く、皆さまに活動を知っていただく事を目的とし本誌を発行しております。回覧板を設置して下さる団体様、施設様を随時募集しています！



CONTENTS

Vol.36

- 第8回 愛鳥祭レポート! 1
- ブラインドバードと暮らす 3
- 視覚の低下や喪失を起こす可能性のある疾患 4
- 大型鳥の視力低下の一例 5
- 2024年1月～12月鳥の出入り他 7

愛鳥祭レポート!

2024年11月16日、17日
埼玉県産業文化センター
ソニックシティ地下1階
(埼玉県さいたま市)

テーマは「SAVE THE BIRDS ～知ること守れる命～」

第8回愛鳥祭は初の埼玉での開催、そして5年ぶりの2日間の開催となりました。
参加して楽しんでいただけてだけでなく、参加することで1羽でも多くの鳥の命を守れる、
そんな想いを込めたイベントになるよう目指しました。



第1展示場 クリエイターブース、無料セミナーブース

第2、第3展示場 企業・社会貢献ブース、
TSUBASAブース(おもちゃ作り教室、大抽選会、くじ引き、支援の羽)

第1展示場



トキちゃんの羽、今年もふっかふかに!

会場入口では今年も「トキちゃんの羽募金」を実施しました。

TSUBASA設立のきっかけとなったオオバタンのトキちゃん。

募金して下さった皆さまにトキちゃんの羽色をした付箋をポスターに貼っていただき、ちょっとだけ胸元が寒そうなトキちゃんをふっかふかにしよう!という企画です。

最終日にはトキちゃんから羽があふれるほどに!

温かいメッセージもたくさんありがとうございました。

2日間で集まった募金額→187,146円 いただきました募金は、レスキュー時の検査費用として大切に活用させていただきます。



「無料セミナー」

愛鳥さんとの生活で役立つ情報をはじめ、環境省との対談など、内容の濃い講演となるよう努めました。用意したイスが足りないほどたくさんの方にお集まりいただき、中には全講演を受講して下さる方もいらっしゃいました。

また、ご登壇いただきました講師の皆様にも心より御礼申し上げます。



「大抽選会」

素敵な商品をご提供いただきました企業様、クリエイター様、本当にありがとうございました!

愛鳥祭レポート!



「支援の羽」

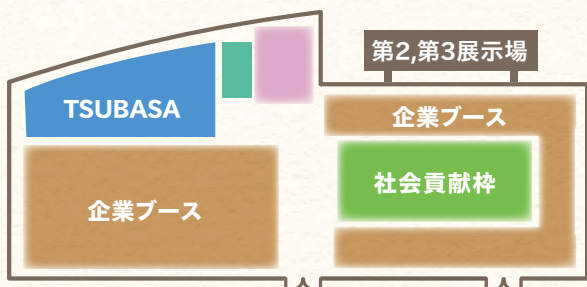
「支援の羽」とは、ハンドメイド作品を無償でご提供いただき、売上を全てTSUBASA並びに鳥たちのために使わせていただく活動です。

素敵な作品をご提供してくださったクリエイター様をはじめ、お買い物いただいた全ての皆さま、ありがとうございました!



「くじ引き」

多くの方に足を運んでいただき、おかげさまで全ての景品が完売となりました! 本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました!



「おもちゃ作り教室」

壊すことに特化したおもちゃをはじめ、愛鳥さんカラーのプランコなど工夫が詰まったおもちゃを作っていました。今年も、終了時刻までお客様が途切れることなく大賑わいでした!



「クイズ & スタンプラリー」

社会貢献のブースにご出展いただいた8団体様全てを訪れてスタンプを集め、〇×クイズに答えていただくとささやかな景品をプレゼント! クイズは2日間で全8問。“知ることで守れる命”に関連した内容を用意しました。景品のオリジナルトレカは、嵯峨野株式会社様(きしゃぼん様)からご提供いただきました!



会場外にあるイベント広場では、インコバルーンが! (NPO法人ハッピーインコ様)



ご来場者数: 約1,800名/2日間
参加企業・クリエイター・団体: 90組
ご参加ありがとうございました!



愛鳥祭2025でお会いしましょう!

第9回愛鳥祭: 2025年10月5日(日) 開催
京セラドーム大阪 9Fスカイホールにて→



ブラインドバードと暮らす

2025年冬号はブラインドバード(目が見えない・見えづらい鳥)がテーマ。

ブラインドバードのイブちゃんに取り組んだことについて
石綿美香様(株式会社ALETTA代表)にお話をうかがいました。

イブちゃんプロフィール

13歳のボタンインコです。まったく人なれしていない「荒鳥」として我が家にやってきたのですが、トレーニングを通じて信頼関係を深めることができました。今は素晴らしいパートナーです。

もともと片方の目は斜視でもう片方は瞳孔が開いているという異常がありました。それでも見えている子と変わらない暮らしができていたのですが、11歳になった頃、突然なにかに驚いて飛び去ったり、なにかに怯えたりすることが増え、「もしかして見えていないかも」と感じるようになりました。病院で「白内障」と診断されました。片目から両目になり2022年8月には視力を失いました。

ブラインドバードへのアプローチ

目が見えなくなり始めて、最初に気をつけたことは、驚かせないようにすることでした。

鳥たちは怖いと感じると、その状況から抜け出すために、パニックのようになって飛んで逃げる、怖いと思う対象物を遠ざけようと攻撃行動が出る可能性があります。どちらも「怖い」と感じる状況を作らないようにすることで避けられます。

驚かせないためにしたことは、「声かけ」やこれから起きることに先行する「音」を出すことです。



①

大切なのは一貫した意味づけと相手の反応確認です。

たとえば日常の中でよくある「おやつをあげる」。一見シンプルなことですが、手渡しでおやつをあげようとすると、いきなり相手の口に触れることになってしまいます。驚いた拍子にそのまま人の手を噛んでしまうかもしれません。

我が家の場合はおやつを渡す時、「はい、どうぞ」という声かけを必ずするようにしました。「はい、どうぞ」はこの状況専用の言葉になります(動画①)。

そして声をかけること以上に大切なのは、声をかけた後に、相手からの反応があるかを確認することです。

我が家ではまだ目が見えている頃からしていたので、「手のほうを見る」「手に近づく」「口を開く」などの反応があり、こうした行動が見られれば受け取る準備ができていると判断できるので、そこでおやつを口元に持っていきます。

もうひとつ日常でよくしているけど、目が見えないとしにくくなるのが「手に乗る」ことです。目が見えている時は、おそらく手が目の前にあるからそれを見て乗っているの、見えなくなった時に、どうやって手が目の前にあることを知らせられるかということになります。手で鳥の足にそっと触れる「触覚」を使うことで、手の存在を知らせ、そのまま手にのってもらおうという方法もありますが、目が見えていれば手が来ることを予期できても、見えなくなると、いきなり足に触られた!と驚かせてしまう可能性があります。



②

我が家では、イブちゃんが足を出したらすぐに乗れるよう、そっと手を足の前に差しだし準備を整え、その直後に「音(口笛)」を出しました(動画②)。練習をするうちに、口笛を聞くと目の前に手があると覚えてくれるので、右足をあげて手に乗る準備をしてくれるようになりました。

将来に備え、目が見えている今できること

今日から取り組めることはたくさん!
このようなトレーニングはお勧めです。

トレーニングでは、以下を明確に伝えることができるので、鳥たちが自信を持って動く助けになります。

🎵「合図」になるもの → ! それに応じた鳥の「行動」 → ❤️ (その結果) 鳥にとっての「良いこと」がおきる



トレーニング例...1

🎵 トントン♪
と床をタップする音 → ! 前に進む
動画では止まり木にとまる → ❤️ おやつ



トレーニング例...2 (動画③)

🎵 チリン♪
という音(のターゲット) → ! 音のほうへ行く → ❤️ おやつや遊び



トレーニングで愛鳥さんの暮らしを豊かに

目が見えなくなって、できなくなることを考えがちですが、新たにできるようになることもたくさんあります。不自由を感じたことはトレーニングを通して改善することができました。鳥たちは常に学習しています。変わっていく状況に合わせて、自分の行動を変える準備は常にできています。ブラインドバードの暮らしを安心と優しさに溢れたものにするために、私たちも変わらしましょう!

里親さんに インタビュー!

TSUBASAから卒業した ブラインドバードとの暮らし

①お迎えのきっかけ②お世話するうえで難しく感じるころ③ブラインドバードならではの魅力④お迎えした鳥さんへ一言

シロップちゃん@オカメインコ.....

- ①里親会のオカメ放鳥タイムの時に、シロップのケージの扉を開けて手を差し伸べた途端、タタタツと勢よく私の腕に登ってきたこと。それから気になるようになりました。
- ②見えていれば何も怖がることではない様なことでも、気配に異常に驚いたり怖がりたりしてしまうこと。
- ③ほとんど見えていないのに、行きたい所には我を忘れて突進する本能と情熱。目が良くないことに対して私が試行錯誤するのも楽しいです。シロップは歌が大好き。私の口笛とよく掛け合いをして遊びますよ!大事なコミュニケーションツールになっています。
- ④いつも色々な表情を見せてくれてありがとう。Love you!!



こじゅうろうちゃん@オカメインコ.....

- ①ボランティアで初めて全盲の鳥さんに接しました。こじゅうろうは手乗りではないし、自分にはお世話が難しいのではないかと思います。何度も会ううちに、見えなくても食器の位置を正確に把握し、声かけや口笛にも反応してくれる様子を見て、私も一緒に暮らせるのではないかと考えるようになりました。
- ②地震でパニックを起こし怪我をして、それに伴い食欲が減退・体重が減少して一ヶ月ほど強制給餌で通院しました。家でも食べてもらうために好物を与えるのに視覚で伝えられず苦労しました。試行錯誤の末、フィンチサイズのペレットをスプーンで与えると食べてくれました。
- ③見えない分、音に敏感で、記憶力も良く同居の鳥達の名前も鳴き声も記憶しています。
- ④24歳ご長寿、おめでとう!これからもこじゅうろうにとって毎日が安心できるものであるように、飼い主も健康でいたいと思います。

株式会社ALETТА様より

ALETТАでは2010年よりコンパニオン・バードの幸せな暮らしに作りに役立つ鳥達の行動やトレーニングに関する情報を提供しています。代表の石綿美香はTSUBASAのバードライフアドバイザー2級愛鳥の行動部門の講師をつとめています。

動物病院で健康管理のための行動習得をめざした、対面とトレーニングクラスやオンラ



インでのトレーニングクラスの開催、愛鳥さんの困った行動のご相談などを行っています。2025年春にはブラインドバードに特化したトレーニングクラスを開催する予定です。



大型鳥の視力低下の一例

オオバタンのピンキーの場合

TSUBASAはレスキュー団体のため、中年から高齢の鳥が多く集まります。特に大型鳥では50歳を超えることも珍しくありません。今回は白内障が始まったピンキーをご紹介します。

ピンキーの白内障の経過

- 43歳(2015年)..... 白内障なし※動物病院での健康診断
- 46歳(2018年)..... 軽度白内障あり生活に問題なし※上記と同じ
- 49歳(2021年)..... 白内障悪化。生活に問題なし
- 50歳(2022年)..... 足が悪くなりアクリルケース生活へ
- 52歳(2022年5月)..... 白内障さらに悪化。目の前の物が見えにくい
- (2022年6月)..... 壁に向かってぶつかっていく。視力のさらなる悪化

現状: 視力検査ができるわけではないので、はっきりしないところはあるものの足元にある食器につまづいたりしています。そして、遠くの目的地に向かっては一応進めることから、遠くが薄ぼんやり見えている遠視のような状況ではないかと推測しています。

現在行っている取り組み

1. 驚かせない
2. こちらの意図を音で伝える

この二点に絞っています。難しいことはできていませんが、我々の望みと、それをピンキーが汲むことができる手札をまずは増やせたら…と考えています。



【お掃除をしたい】を伝える

アクリルケースに住むピンキーは、お掃除の際には必ずケースから出てもらわねばなりません。以前から外に出る時は金属の網に乗せていましたが、見えにくくなってからは網を足元に置かれていることに気付けません。そこで、

- ① ベルを鳴らす
- ② 網を足にそっと触れさせて、そこに網があることを教える
- ③ 網に乗る

上記3つのステップから始め、今では②がなくても、ベルだけで網の上に移動することができるようになってきました。

他にも、食器交換の時なども声掛けと共にアクリルケースをノックしてから開けるようにしています。

見えないということは、想像以上に次に何が起こるか分からないものだと思います。音で次に何を人間が起こそうとしているかを伝える取り組みです。

ささやかですし、とても簡単ですが鳥たちは嗅覚ではなく視覚情報に頼っている生き物なので少しでもピンキーの安心材料になればいいなと思っています。

「見えない」それだけで鳥たちのQOLが損なわれることがないように

少し悔やまれるのは…

お隣のケージに長年住んでいるペリーとは、ピンキーの視力が落ちる前からお互い気になる関係。年齢も施設で暮らす年数もほぼ同じですが、ケージの外で一緒に過ごしたことはありません。

先日一緒に出してみました。見えないがゆえにピンキーから嬉しそうな反応はもらえませんでした。もちろん、ペリーが羽繕いなど誘ってくれてもびっくりすると思います。

目が見えなくなっても、コンパニオンバードは素晴らしい適応力を見せてくれます。ですが、それでも見える時に経験してお

いたことの方が受け入れが容易なのは間違いありません。高齢で目が見えなくなる可能性が予想できた時点で、ペリーとは遊ぶ機会を作るべきだったと少し後悔しています。皆さまもぜひ、鳥さんたちに多くの経験をさせてあげてください。その経験は、鳥さんの蓄積となり未来に必ず役に立つと思います。野生では、目が見えなくなることはすなわち死を意味するでしょう。ですが、コンパニオンバードはそうではありません。内臓機能が丈夫であれば、そこから先の鳥生は長いものになります。「見えない」その一点だけで、鳥たちのQOL



が大幅に損なわれることがないように寄り添ってはいけななと感じています。これからも、ピンキーの楽しみを模索していきたいと思っています。



ピンキー プロフィール

鳥種: オオバタン

年齢: 53歳(1972年生)

お引き取り: 2018年

手放し理由: 鳴き声による
近隣苦情

里親さん募集中!



視覚の低下や喪失を 起こす可能性のある疾患について



「視覚の評価」

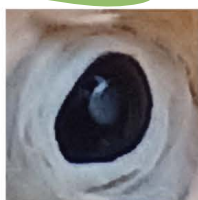
たとえば犬の場合、目の前に急に手を差し出したとき目をつぶるか、綿球などの音がしない物を落とした時に目で追うか等の検査をする事により視覚があるかを判定します。しかし、鳥の場合は検査で判定するのは大変難しく、ケージに居るときや放鳥時の様子を観察する事により判断する事になります。様々な検査で疾患の診断をしますが、必ずしも視覚の有無と関連する訳ではありません。

様々な眼球の疾患

「白内障」

TSUBASAでもよく見られる疾患です

水晶体や虹彩嚢が混濁します。老化や遺伝性(若齢で発生)、栄養不足(母体のビタミンE不足により雛に発現)、外傷、毒性作用、他の眼疾患が原因となります。白濁の度合により、かすんで見える、ぼやけて見える等の視覚障害が発生します。

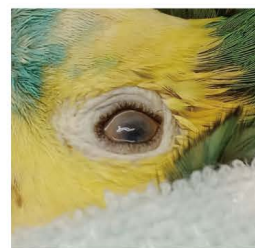


「角膜の疾患」

外傷、ビタミンA欠乏、感染、毒性反応により炎症や潰瘍・穿孔が起こり、角膜の透明性が失われる、角膜の形が変形してしまうと視覚に障害が生じる可能性があります。



ボウシインコさんに多い副鼻腔炎を伴わない点状角膜潰瘍。潰瘍部分が広範囲になると視覚に影響をおよぼすと思われます。



角膜浮腫により白濁し、虹彩の動きも無いため、視覚は障害されていると思われます。

「眼球突出症」

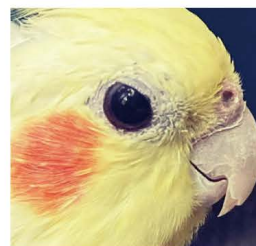
眼球自体の腫大又は眼窩の異常(外傷、炎症、感染、膿瘍、腫瘍等)により眼球が前方に変位する事で起こります。視神経が障害される、瞼を閉じる事が出来ず角膜が障害される事により視覚に障害が生じる可能性があります。

●涙の貯留によるもの



眼球周囲に涙が貯留し眼球が突出。切開し貯留した涙を排出しました。

●緑内障疑いによるもの



重度のぶどう膜炎前房出血に続いて発生する事が多い。眼圧が高くなり、視神経が障害されます。小型鳥では眼圧測定は結果が安定せず診断が難しいです。

「眼球ろう」

重篤な眼疾患により眼球の房水産生がなくなり、萎縮して眼が機能を失った状態を言います。

TSUBASAでは、レスキュー文鳥さんで多くみられました。



「ぶどう膜炎」

外傷、感染症、免疫性炎症、腫瘍が原因となります。角膜潰瘍により発生する事もあります。

また、免疫性ぶどう膜炎は白内障が再吸収されるにつれて発現します。

ぶどう膜は血管が豊富なため炎症を起こしやすく、視神経に通じる網膜にも炎症が広がり視覚障害が引き起こされます。

「オカメインコ ルチノー種の眼疾患」

TSUBASAで引き取った10歳以上のルチノー種のオカメインコさんは、瞳孔散大、眼瞼が閉じたまま、白内障等眼疾患を患っている子が多い傾向にあります。原因は分かりません。



脳疾患の影響

脳内の視神経やその付近で脳出血や脳梗塞、脳腫瘍ができた場合に、視覚障害が発生します。

2024年1月～12月鳥の出入り

受け入れ羽数 **61**羽

今年のご高齢による手放し、入院、施設入居、レスキューによるものが8割でした。また、施設収容羽数は一時期、約150羽にもなりました。鳥の受け入れは、引き取って終わりではなく、健康を維持し、必要な治療をし、次の飼い主様にお繋ぎするまで続きます。本来であれば、依頼主様に引取り費用としてその一部をご負担していただきますが、最近ではやむを得ない事情でご負担いただけない引き取りが増えています。2年間でTSUBASAが負担した金額は180万円にのぼりますが、ご飯類やケージなどの物品支援、寄付などに大変助けられております。本当にありがとうございます。今後も里親探しやイベントにより一層力を入れてまいります。引き続き応援していただければ嬉しいです。



里親決定羽数 **65**羽

2021年10月に実施した【103羽文鳥レスキュー】最後の1羽が里親さんのもとへ卒業しました。看護が必要だった最後まで残っていた杏は体調が不安定なこともあり、里親募集はしていませんでしたが、医療が充実している方からお声がかかり無事卒業いたしました。



施設にはまだまだ、新しいご家族を待っている鳥たちが多く暮らしています。彼らの日々の様子をSNS等を通して定期的に発信してまいりますのでぜひご覧いただけますと嬉しいです。

現在里親募集中の鳥さんは
こちらからチェック!



秩父セキセイ里親募集中



引き取り当時は、セキセイ43羽と十姉妹2羽でした。里親さんが決まった子、亡くなってしまった子もありますが、現在は25羽が施設で暮らしています。

前のご家庭では食べ放題だったため、ぽっちゃりさんが多く、現在ダイエット中です。受け入れ当初は近くに人がいるだけで緊張していましたが、最近はおもちゃで遊ぶ

様子や食器をひっくり返すいたずらも目の前で見てくれるようになりました。過酷な環境を生き抜いてきた子たちだからこそ、今後は暖かいご家庭で余生を過ごしてほしいと願っています。

秩父セキセイ 里親決定までの流れ

- ①「秩父セキセイ里親申込みフォーム」からお申込み
- ②ZOOMによる面談
- ③スタッフ間で協議後、お迎え日を調整
- ④お迎え日は、レクチャー、書類の読み交わし後、お家へ連れて帰っていただきます。
- ⑤お迎え後1か月以内に健康診断を受けていただきます。
- ⑥診断の報告を受けた後に里親決定。



オールドお疲れさま

2024年8月にオールド@キエリボウシインコが永眠いたしました。推定60歳超えでした。通常は亡くなった鳥さんのご報告はしておりません。ですが、「とり村の村鳥(そんちょう)」と呼ばれ、TSUBASAのシンボルのような鳥さんでしたのでご報告させていただきます。これでお世話が最後になるかもしれないと思う瞬間が何度もありました。それでも毎回持ち直しては、私たちにお世話をさせてくれました。オールドを通して得た経験を活かして他の鳥さんたちをこれからも支えてまいります。



【発行元】認定NPO法人 TSUBASA 松本壮志/涌井智美/望月健人/井伊順子/城ヶ崎裕海/清水有紀/新田莉子/家入晋平/高橋怜未/戸島万記子

【発行】2025年2月 次回発行は2025年7月予定です。

※誌面の情報は発行日現在のものです。情報に変更が生じる場合がございますのでなにとぞご了承ください。

認定NPO法人 TSUBASA 埼玉県新座市中野2-2-22 [Tel]048-480-6077 [Fax]048-480-6078 [e-mail]npotsubasa@tsubasa0615.org